

保健師

シリーズ③

インフルエンザを

予防しましょう



インフルエンザは通常、11月下旬から12月上旬に流行し始め、1月から3月にピークを迎えます。平成21年には新型インフルエンザが世界で広まり、ここ20年で最大の流行規模となりました。

インフルエンザは、突然の発熱や全身のけん怠感などの症状が特徴です。普通の風邪とは違い、伝染性が強く、重症化しやすいため、注意が必要な感染症です。

日常生活の中でインフルエンザを予防するためには、次のことが大切です。

- ① 栄養と休息を十分とる
 - ② 外出後は手洗いとうがいをする
 - ③ マスクを着用する
 - ④ 室内の湿度を50～60%に保つ(インフルエンザウイルスは湿度に非常に弱い)
 - ⑤ 流行時には人ごみを避ける
- もしインフルエンザにかかってしまったら、周り

の人へうつさないために、マスクをつけ(咳エチケット)、外出を控えましょう。

咳エチケット

- ・ 咳やくしゃみの際は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ1m以上離れる。
- ・ 鼻汁や痰などを含んだティッシュを蓋付きのごみ箱に捨てられる環境を整える。
- ・ 咳をしている人にマスクの着用を促す。

流行前にインフルエンザワクチンの予防接種を受けることも、感染予防やかかった場合の症状の軽減に有効です。町では65歳以上の方にインフルエンザの予防接種料の助成制度を設けています。また、60歳以上の任意接種の方にインフルエンザ予防接種料の一部を助成しています。まだ接種されていない方は、早めに接種してください。

【問合先】福祉健康課

かさまつの民話『昔むかし』

米野の戦い⑤

勘平が足をとられてよろけるすきに、長能は飛びおり、馬のりになって攻めた。あわや、勘平の命もこれまでと思われたが、目の前の太刀をはらいのけ、組みふせられた胸をつかんでねのけた。勘平は立ちあがるやいなや、相手にくみつき、ねじふせようとしたが相手も強かった。ようやく、組みふせて、首をとろうとすると、家来が数人、勘平にかかってきた。一時は攻めこんだが、多勢に無勢でこんどは勘平が組みしかれてしまった。そして、ついに、むざんにも、つき殺されてしまったのである。

長能は、むずと立ちあがると、「敵ながら、あっぱれな士じゃ。きっと名のあつる武士に相違あるまい。この首は大切に持参し、家康公に見参せよ。」

と命じた。また、勘平の持っていた長脇差を大切に持ちかまえ、

「これは、名のある武将の刀、授けるぞ。」と、伊藤与兵衛にわたした。

勘平はじめ、美濃側のいさましい戦いもついに功ならず、敗残のうきめをみることになったのである。米野につくられた竹やらいはふみくだかれ、田畑は乱れ、人家は焼かれ、無数の死者を出し、戦場はさらに西へと進んでいったのである。

これより、天下わけての関ヶ原の戦いに発展し、一つの時代の終末をつけるときもあった。勘平は大垣の池尻城主の子で、年はまだ二十一歳であった。

「おい、見たかや。聞いたかや。」

「おお、見たとも、聞いたとも。」

米野の村人たちで、勇敢に戦った勘平の名を告げぬ者はなかった。

荒れた田畑もやがてたちなおり、

「知ってるか。」

「知ってる。」

「お前も知ってるか。」

「どうして知らずとも

…。」

村人は、こうしていつまでも、米野の戦いを語り伝えている。

(おわり)



笠松町指定文化財(史跡) 米野の戦い跡(笠松町米野)